

障害者スポーツ推進プロジェクト  
「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業」  
委託事業成果報告書



2023年3月

長野県

(パラウエーブNAGANO実行委員会)

## 目 次

I 事業背景	・・・ 2
II 事業実施の目的、体制	
1 事業目的	・・・ 2
2 事業実施体制	・・・ 2
III 事業内容	
1 事業の年間スケジュール	・・・ 4
2 内 容	
(1) 総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり事業	・・・ 4
(2) ボッチャ審判員養成講習会の開催	・・・ 14
IV 今後の展望等	
1 評価・分析等	・・・ 16
2 反省点	・・・ 16
3 今後の課題、施策の方向性	・・・ 16
V 関連する取組	
1 パラスポーツを題材にした教育プロジェクト「パラ学」の実施	・・・ 18
2 パラウェーブ広場の開催	・・・ 19
3 ボッチャ競技大会「パラウェーブ NAGANO カップ 2022」の開催	・・・ 20
その他広報、資料等	・・・ 22

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、長野県が実施した令和4年度障がい者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）の成果を取りまとめたものです。従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

## I 事業背景

障がいのある人にとって、スポーツは社会参加への第一歩であるとともに、地域における交流の機会としても重要である。しかし、障がい者スポーツの振興はこれまでも行政や様々なスポーツ関係者が取り組んできているが、依然として障がい者のスポーツ離れが改善されず、本県でも他の地域と同様に、スポーツをする障がい者は減少傾向にあり、県障がい者スポーツ大会等への参加者数は10年前と比較し、約2割減少している。さらに新型コロナウイルス感染症の影響も相まって、地域でのスポーツイベント自体が減少しており、障がい者がスポーツを十分に行える環境ではない。また、本県は県土が広く、市町村数が多いこともあり、地域によって障がい者スポーツに対する取組に温度差がある。

このような状況の中で、2028年に本県で全国障害者スポーツ大会「信州やまなみ全障スポ」の開催が予定されている。

＜本県の障がい者スポーツを取り巻く現状＞

- ・スポーツを実施する障がい者数が減少傾向
- ・パラスポーツに対する地域間の温度差が大きい
- ・障がい者スポーツを支える指導員・審判員の不足

＜課題＞

2028年に本県で全国障害者スポーツ大会「信州やまなみ全障スポ」が開催されるが、障がい者が、身近な地域でスポーツを楽しむ環境が整っていない。

## II 事業実施の目的、体制

### 1 事業目的

関係する機関と連携しながら県全体で魅力ある一体的な普及啓発活動を行い、障がい者スポーツを楽しめる機会や場所、障がい者スポーツを担う人材を新たに掘り起こすことで、県民が障がい者スポーツを楽しめる機会を拡大し、身近な場所でスポーツを楽しめる環境を整備していくことを目的とし、本事業を実施する。

### 2 事業実施体制

パラウェーブNAGANO実行委員会

- ・目的 スポーツを通じた共生社会づくりに向けた事業実施、実施結果の検証、成果のとりまとめ、課題解決に向けた分析
- ・委員 15名（県、県教育委員会、大学関係者、障がい者スポーツ関係者、スポーツ関係者、公民館、社会福祉関係者等）  
事務局：県障がい者支援課

・会議開催状況

第1回実行委員会

日 時：令和4年6月

開催方法：書面決議により実施

議 題：令和3年度 収支決算

第2回実行委員会

日 時：令和5年3月9日（木） 14時00分～15時00分

開催方法：Zoomによるオンライン会議

議 題：令和4年度事業の途中報告、令和5年度の事業計画案及び収支予算案

パラウェーブNAGANO実行委員会 委員名簿

	役 職	氏 名	所 属
1	委員長	福田 雄一	長野県健康福祉部長
2	委員	犬飼 己紀子	長野県レクリエーション協会 副会長
3	委員	金子 和夫	長野県スポーツ推進委員協議会 副会長
4	委員	加藤 正	(公財)長野県障がい者スポーツ協会 コーディネーター
5	委員	小松 昌久	(公財)長野県障がい者スポーツ協会 副理事長
6	委員	篠原 利典	長野県障がい者スポーツ指導者協議会 会長
7	委員	北村 享一	長野県公民館運営協議会 副会長
8	委員	伊東 一雄	(公財)長野県スポーツ協会 事務局長
9	委員	橋本 政晴	信州大学教育学部 講師
10	委員	辺見 元孝	長野県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 理事
11	委員	山崎 珠美	長野県障がい者福祉センター スポーツ課長
12	委員	田口 亜希	(公財)日本財団パラスポーツサポートセンター ディレクター
13	委員	深沢 幸栄	長野県社会福祉協議会事務局長
14	委員	北島 隆英	長野県教育委員会事務局 スポーツ課長
15	監事	永原 龍一	(公財)長野県障がい者スポーツ協会 常務理事

### Ⅲ 事業内容

#### 1 事業の年間スケジュール

時期	主な取組	関連する取組	備考
4月			
5月	・事業告知開始		
6月	総合型6クラブと契約・事業開始	教育プロジェクトの開始	スポーツ庁と契約・事業開始
7月		パラウェーブ広場inイオンモール松本店	広報誌の発行
8月		パラウェーブ広場 in24hTV	
9月			
10月	ボッチャ審判員養成講習会		
11月		・ボッチャ北信大会 ・ボッチャ中信大会	
12月		・ボッチャ南信大会 ・ボッチャ東信大会	
1月		・ボッチャ県大会	
2月			
3月			

#### 2 内容

##### (1) 総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり事業

##### ○目的

障がいの有無に関わらず、誰もが身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりを推進するため、総合型地域スポーツクラブ等が地域の障がい者福祉施設等と連携して、障がい者に対しスポーツやレクリエーションの体験会を提供することで、障がい者のスポーツ実施環境を整備する。

##### 〔総合型地域スポーツクラブでの障がい者参加の状況調査〕

障がい者の受け入れをしているクラブ数

区分		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
クラブ 回答数	受け入れている	9	14	14	20	18	<b>22</b>
	割合 (総数に対する%)	13.2%	20.9%	20.9%	30.3%	26.9%	<b>31.9%</b>
	受け入れていない	7	12	17	29	32	31
	不明	4	10	4	6	2	4
	回答総数	20	32	35	55	52	57
総合型クラブ総数		68	67	67	66	67	69

○令和4年度の実施状況

障がい者スポーツの拠点づくりに意欲のあるクラブを募集。

令和4年度は以下の6クラブからの応募があり、拠点づくり事業を6クラブへ委託した。

【スケジュール】

令和4年5月23日 事業告知開始（長野県体育センターを通じて、県内全総合型地域スポーツクラブへの周知に加え、総合型クラブ連絡協議会総会で周知）

6月10日 企画書・概算見積書提出期限

17日 書類審査

20日 候補者決定

28日 以下6クラブと契約・事業の開始

①千曲アプリコットスポーツクラブ（千曲市）

②NPO 総合体操クラブ Wing（松本市）

③木曽ひのきっ子ゆうゆうクラブ（上松町）

④たかぎスポーツクラブ（喬木村）

⑤伊那市総合型スポーツクラブ（伊那市）

⑥ながの北部スポーツクラブ（長野市）

令和5年2月15日 事業終了

[委託クラブからの実施報告（各クラブからの報告書や県の聞き取り等により作成）]

①千曲アプリコットスポーツクラブ（千曲市）

1 連携団体

いなりやま福祉会（満天の星、はなたば、いなりやま共同作業所）

2 実施内容

（1）レクリエーション体験会

日 程 令和4年7月6日（水）、7月13日（水）、7月20日（水）、  
8月10日（水）、8月24日（水）、8月31日（水）、

場 所 千曲市勤労者体育館等

参加者 いなりやま福祉会通所者 のべ57人

内 容 ボッチャ、スマイルボール、風船バドミントン、風船バレーなどのレクリエーション体験会

（2）スポーツ交流会

日 程 令和4年10月10日（月・祝）、11月20日（日）

場 所 戸倉体育館

参加者 障がい者とその家族 50人

内 容 体操、ボッチャ、スマイルボール

3 前回（昨年度）からの相違点や工夫（応募時点）

前は、参加者の皆さんにいろいろなスポーツを体験してもらったので、今回はその中からいくつかを選んでもらい、少しでも上手くいく成功体験を味わってもらえるような体験会にしたい。

4 事業実施後のクラブのコメント

○女性の参加者が多くパラバレーをやったところ、とても喜ばれた。

○福祉施設の方が、入所者さんと参加されて喜んで帰られた。お母さんと障がいがあるお子さんの参加もあり「普段なかなか遊ぶところがないのでとても良かった」とおっしゃっていた。

○障がいの度合いによって種目も考えて提案できるように、そして満足して帰られるように工夫していきたいと思った。

○（スポーツ交流会にて）「無料で参加できるので良かった」、「指導してもらえて良かった」、「お友達ができてよかった」などの声を頂いた。

5 課題

○障がいがある方がイベントに参加するとき問題になるのが、移動手段がないということ。誰かに連れてきてもらわないと参加できない。このことが今後の課題だと思った。

〔体験会の様子〕



## ②NPO 総合体操クラブ Wing（松本市）

1 連携団体 日本ダウン症協会長野支部松本ひまわりの会、松本大学、  
長野県立寿台養護学校、音色クラブ

### 2 実施内容

#### （1）ダウン症児親子体操

内 容 ダウン症児とその保護者を対象に、親子で体操を行う。

日 程 令和4年7月16日（土）、10月22日（土）、11月12日（土）、12月10日（土）  
令和5年1月21日（土）、2月4日（土）

場 所 庄内体育館、各地区公民館等

参加者 ダウン症児とその保護者 のべ28組

#### （2）各種スポーツ体験

種目等 トランポリン、ボッチャ

日 程 令和4年9月10日（土）9月17日（土）

場 所 松本市総合体育館

参加者 ダウン症児とその保護者 のべ8組

### 3 前回（昨年度）からの相違点や工夫（応募時点）

- 親子体操は、引き続き実施していく中で、親子との関わり合い方を互いに学んでいきたいと思っている。そのためにも、勉強会で立場の異なる視点から課題や気づきを出し合い共有して、実際の体操時や家庭でも生かしていけたらと思う。
- 健常児と一緒に体操することで、互いに理解を深めるきっかけをつくりたい。
- 昨年実施したトランポリン以外にも、別のスポーツを体験して楽しみたい。

### 4 事業実施後のクラブのコメント

- 今回健常児も一緒に行ったことで、その子の真似をしてやってみようとする姿もあった。
- どんな運動・体験にしても親子でできることにとっても安心感があり、意味があると思う。
- ポッチャは大人も子供も関係なく楽しめるルールで、さすがパラスポーツ種目と感心する。
- 学生さんたちが、子供たちの為に絵本を劇仕立てに読んでくださり、とても嬉しかった。

### 5 課題

- ひまわりの会さんを中心にダウン症児と保護者に参加いただいたが、今後は更に対象を広げて発達障がいや身体障がいの子たちにも参加していただければと思う。
- 車いすの方が参加した場合に十分なサポートをしていく必要がある。障がいのある方が一人でも参加できるように、送迎やサポートをしていただけるようなサービスに関する情報が欲しい。

#### 〔体験会の様子〕



### ③木曾ひのきっ子ゆうゆうクラブ（木曾郡上松町）

1 連携団体 長野県立木曾養護学校

#### 2 実施内容

種 目 水上スポーツサップ体験、フィンスイム体験、  
キンボール体験（台風の影響でサップ体験から1回分変更）

日 程 令和4年7月6日（水）、7月13日（水）、7月20日（水）

場 所 木曾養護学校プール、体育館

参加者 木曾養護学校の生徒28人

#### 3 前回（昨年度）からの相違点や工夫（応募時点）

特に小学部ではサップに乗っていない生徒が集中力に欠ける子もいたため、そのような子も楽しめるように、フィンスイムを導入。

#### 4 事業実施後のクラブのコメント

○高等部は、台風の影響でサップ体験はできなかったが、キンボールも初めての体験でよかった。学校の体育の授業では体験できない内容を体験するという目的が達成できてよかった。

○小学部は、はじめはちょっと恐る恐るだったが、後半は慣れてサップをうまくコントロールできていた。やっぱり立つことができないとつまらないので、次回は立てるように導きたい。

○中学部は、サップに立つことができるので、サップの楽しさを実感できた。フィンをつけ、サップを前にしての競走も大いに盛り上がった。子供たちの笑顔が最高だった。

#### 5 課題

小学部は飽きてしまうので、もう少し内容を検討する余地がある。

#### 〔体験会の様子〕



#### ④たかぎスポーツクラブ（下伊那郡喬木村）

1 連携団体 長野県立飯田養護学校等

#### 2 実施内容

種 目 陸上体験

日 程 令和5年2月17日（金）

場 所 喬木村芝グラウンド

参加者 障がい児 2人、健常児2人 計4人

#### 3 前回（昨年度）からの相違点や工夫（応募時点）

昨年度は卓球、サッカーを行ったが参加者が少なかった。2028年全国障害者スポーツ大会に向けて陸上の選手を探しているという話を聞いた。当法人では陸上の専門クラスを開講していることから、このクラスで健常者、障がい者ともに楽しんで継続的に参加できる環境を整えていきたい。

#### 4 事業実施後のクラブのコメント

指導者側が考えてきた実施内容をこなすことは難しそうだったが、参加者が取り組んでみたい場所や行ってみたいと興味を持てる内容だと自然と楽しんで体を動かすことができていた。

#### 5 課題

○いかにして障がいのある方が外に出てきてスポーツを実施してもらうかが課題。

○今回は、2028年全国障害者スポーツ大会に向けて、高学年向けの陸上教室として実施したが、なかなか参加者が集まらなかった。対象を低学年まで広げたり、競技・種目をどう選定するか工夫が必要だと思った。

〔体験会の様子〕



## ⑤伊那市総合型スポーツクラブ（伊那市）

1 連携団体 長野県立伊那養護学校

### 2 実施内容

種 目 陸上体験、総合運動プログラム

日 程 令和4年10月31日（月）、令和5年2月7日（火）

場 所 伊那市民体育館ロジテックアリーナ

参加者 障がい者 4人、健常者 8人 計12人

### 3 事業実施後のクラブのコメント

- 身近な遊びをアレンジしたり、平易なルールで実施することで、健常者、障がい者関係なく、全員出来る講座を運営できた点が非常に良かった。
- かけっこだけでなく、投げる動作を入れ、さらにゲーム要素を取り入れたプログラムであったため、幅広い運動能力を育むと共に参加者間で盛り上がる事が出来た。
- 参加した障がいのある子どもは大変恥ずかしがり屋だったが、保護者の方が前向きに参加下さったおかげでプログラムの大部分に参加出来て良かった。
- 障がいのある子への運動機会提供だけでなく、健常者の子どもにとってもコミュニケーションや思いやりを育む良い機会になったと思う。

〔体験会の様子〕



## ⑥ながの北部スポーツクラブ（長野市）

1 連携団体 長野県障がい者福祉センター、甲信越車いすテニス協会、  
長野県立長野ろう学校

### 2 実施内容

種 目 テニス体験会

日 程 令和4年9月25日（日）、10月2日（日）、10月9日（日）、  
10月16日（日）、10月23日（日）、10月30日（日）、  
11月6日（日）、11月13日（日）

場 所 サンアップル（長野県障がい者福祉センター）

参加者 車いすテニスに興味関心がある障がい者・健常者の方  
テニスを体験したい知的障がい者のご家族、聴覚障がい者の方 のべ86人

### 3 事業実施後のクラブのコメント

- 体育館に来たついでにテニスコートを覗いてみたという参加者もあり、別の目的でサンアップルに来る方に短時間の参加を促すアプローチも必要。
- リピーター参加者が多く、スタッフとのコミュニケーションも取れてきたので子供たちは楽しそうだった。
- 冬場も体育館で継続して教わりたいとの声もあり、当クラブでも前向きに検討することとなった。

### 4 課題

- 活動場所の確保が課題。連携先の長野県障がい者福祉センターで施設を貸していただいたが、借りられなかった場合の会場確保が大変。
- 今回は様々な障がいを持った方（車いす、知的、精神、聴覚）に参加いただいたので、対応について勉強になった反面、難しい部分もあった。
- たくさん参加いただければ嬉しいが、スタッフの配置によっては配慮しきれなくなってしまうという問題が生じる。ちょうどいい参加者数になるようなPRというのが難しいと感じた。

#### 〔体験会の様子〕



## ○総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり事業のまとめ

### 1 令和4年度事業の成果

- ・今年度も、県内地域に偏りなく、受託いただくことで、障がい者スポーツに対する地域間の温度差解消に寄与することができた。
- ・昨年より1クラブ多い6クラブに受託いただき、受託者のうち1クラブが初めて本事業を活用して障がい者へのプログラムを実施。
- ・受託2年目、3年目のクラブは前年度から工夫して新たな取組を行ったり、新たな競技を取り入れたりした。
- ・様々な障がいの特性について、クラブやスタッフの知識の蓄積により、柔軟に対応できたクラブもあった。
- ・障がい者を受け入れるクラブ数の増加に寄与することができた。



### 2 事業の課題

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、事業の縮小や一部中止を行ったり、参加者数が伸び悩んだりしたクラブもあった。
- ・参加者が増えても、その分スタッフの配置が必要となり、必ずしも事業の収支がプラスになるわけではない。そのあたりのスタッフ配置や参加費の設定を考える必要がある。
- ・競技によって参加者数にばらつきがある。特に陸上などの競技性の高いスポーツの参加者数が低迷していた。
- ・地域全体に広めていくにはまだ連携先を増やす必要がある。

### 3 事業の今後について

- ・今後も本事業を継続的に実施し、総合型地域スポーツクラブが障がい者スポーツの拠点となるよう支援していきたい。
- ・新たなクラブにも受託いただくよう、周知をしていきたい。
- ・クラブ内で障がい者スポーツに対する知識を持ったスタッフが増えるよう、障がい者スポーツ指導員養成研修の周知を行い、研修への参加を促す。
- ・事業を進めるにあたって相談先等を案内していく。

## (2) ボッチャ審判員養成講習会

### ○目的

県内でのボッチャの基盤強化とボッチャを通じた共生社会づくりの一環として、審判ができる人材を一人でも多く養成することを目的として開催

### ○日時

令和4年10月10日(月・祝) 13時30分～16時

### ○場所

松本市臨空工業団体体育館(松本市和田)

### ○参加者数

33人(うち28人が初参加) この他、手話通訳者を2名配置

### ○講師

3名 高野 仁美 様(長野県ボッチャ協会 会長)  
相澤 秀明 様(長野県ボッチャ協会 理事長)  
高見沢 心 様(長野県ボッチャ協会 C級審判)

### ○講習会内容

冒頭にデモを実施(30分程度)し、残りの時間は理解度別に3コートに分かれて、実戦を行いながら実技を行った。

(上級者コート) 高見沢様 (中級者コート) 相澤理事長 (初級者コート) 高野会長

### ○成果

- ・受講者のうち10名が、ボッチャ競技大会「パラウェーブNAGANOカップ2022」で審判員として大会を支えてくださった。
- ・同会場で午前中に全国障害者スポーツ大会(鹿児島大会)のボッチャ選手(座位)選考会を行ったので、引き続き残っていただき、ランプの説明等を行っていただくことで、ルールだけでなく、実際に用具を見て学ぶことができた。
- ・障がい者スポーツ指導員9名の活動の場として参加いただけた。

### ○今後について

来年度も本講習会を実施すると共に、地域の小さなイベントを紹介したり、県やパラウェーブNAGANO実行委員会で主催するボッチャイベントにお越しいただいたりして、ステップアップを図る。

### ○講習会実施後のアンケート調査結果概要

以下のアンケート結果から、満足度が高く、スキルアップや活躍の場を求める声があった。

Q1 本日の講習会はいかがでしたか。

回答	件数	%	満足度自由記述
満足	8	67%	・実際に競技及び審判を体験し、疑問点等を都度説明頂き、理解できた。 ・地元に戻り普及に努めたいと思う。 ・審判とプレーヤーの両者を行うことで、一連の流れがより覚えられた。 ・ボッチャに対し、意欲的な方々との研修会は楽しかった。ご指導いただいた先生方に感謝。 ・主催者の方々、講師の方々とても温かく、さすが、パラスポーツに携わってる方々だと思いました。
やや満足	3	25%	
普通	1	8%	
やや不満	0	0%	
不満	0	0%	
計	12	100	

Q 2 参加のきっかけは何ですか。（複数回答可）

回答	件数
今後、所属組織等でボッチャ大会や講習会を開催する予定（計画）があるため	7
個人的にボッチャに興味があったため	5
今後、ボッチャ大会の審判員等をする意欲（予定）があるため	3
計	15

自由記述

ご意見等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のスキルアップの手順や機会、例えばステップアップ講習会などを企画、紹介していただけるとありがたい。</li> <li>・自分がボッチャの審判をやる時も講師の方々のように皆さんが楽しめるようにやりたいと思った。</li> <li>・さらにボッチャを普及してもらおうと私たちの活躍の場も増えて、審判をやりたい人も増えると思う。</li> <li>・講習会参加証明書のなものがあるといいと思った。さまざまなスポーツでは、審判員に対する資格があり、それがモチベーションにもつながると思う。</li> </ul>

### 講習会の様子



## IV 今後の展望等

### 1 評価・分析等

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により一部事業が縮小となったが、「総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり事業」と「ボッチャ審判員養成講習会」を実施することで、障がい者が身近な地域でスポーツを実施する環境の整備や、障がい者スポーツを支える人材の養成について、一定の成果が得られた。また、これらの取組と、パラウェーブ NAGANO プロジェクトの他の取組（後述の「関連する取組」）を連携して行うことで、より効果的、一体的に事業を行うことができた。

### 2 反省点

#### (1) ボッチャ審判員養成講習会

受講者のうち、10名がパラウェーブ NAGANO 実行委員会主催のボッチャ大会で審判員として参加して下さったが、それ以外の方にも身近な地域でのボッチャイベント等の案内を行い活動の場を提供する必要がある。受講者のスキルアップや、審判員としての活動を継続的に行えるよう、地域でのボッチャイベント等の周知を行い、講習会の効果を高めたい。

#### (2) 総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり事業

クラブが受託後に自立して活動するためには、地域が一体となり継続的に参加者を確保する必要がある。そのためには、市町村等、行政の関与が必要である。

また、参加者の会場までの移動手段も課題であり、今後検討していく必要がある。

### 3 今後の課題、施策の方向性

障がい者へのスポーツプログラムを導入する総合型地域スポーツクラブは着実に増えてはいるものの、まだまだ地域内での連携を構築した拠点となるには時間がかかると思われる。今後も障がい者を受け入れるクラブの増加とともに、連携先を増加させるよう検討していく。

今後も障がい者スポーツに対する関心の高まりや、社会情勢の変化を追い風に、本事業を推進していき、2028年の信州やまなみ全障スポを成功させたい。

# 関連する取組

## V 関連する取組

### 1 パラスポーツを題材にした教育プロジェクト「パラ学」の実施

#### パラ学とは

県内の学校に対し、県独自のパラスポーツ体験型授業の提供のほか、パラリンピック教育教材やパラスポーツを題材にした各種プログラムの紹介を行うプロジェクト

#### 目的

- ・座学、パラスポーツ体験及び出前授業等を通して、児童の「多様性」と「しなやかな心」を育むこと
- ・「障がい」「共生社会」について考えてもらうきっかけづくり

#### | 県独自のパラスポーツ体験型授業とは |



バスケットボール用車いすに乗って、みんなでゴールを目指せ！

#### 「車いすボールチャレンジ」(県オリジナルプログラム)

長野県出身のパラリンピックのメダリストを講師として学校に派遣します。  
(学校体育館で実施、原則小学4～6年生・中学生が対象、70分～100分授業)

※子どもたちの体験の質を高めるため、事前事後に「iPOSSIBLE」の活用を推奨します。

講師：

加藤 正(伊那市出身)  
車いすバスケットボール  
アイスレジャスピードレース

馬島 誠(辰野町出身)  
パラアイスホッケー  
パラ・パワーリフティング

#### 1回目の挑戦

まずはチャレンジ！

6人1グループで全員が競技用車いすに乗った状態で、スタートラインからボールを移動させ、2分間で何回ゴールができるかを競います。

<イメージ>



#### みんなで話し合い (作戦会議)

講師から最小限のヒント！

どうすればゴールが増えるか  
みんなで考えよう！



#### 2回目の挑戦

話し合ったことを実践！

1回目より多くのゴールを  
決められるだろうか…



#### 振り返り

気づきの交流

講師からの振り返り



#### 子どもたちの到達目標

- ・みんなで工夫し協力して、困難を乗り越えることの大切さを実感
- ・夢中になって真剣に取り組み、パラスポーツをより身近な存在に感じる
- ・体験後もパラスポーツに引き続き興味を持ち、自発的に次のステップへの意欲を持つ

バスケットボール用車いすは、(公社)24時間テレビチャリティー委員会から長野県に寄贈いただいた物です。

#### 今年度取り組んだこと

#### ・市町村単位の教育委員会や社会福祉協議会との連携強化

→学校への周知機会の増加

ex. 校長会での案内(松本市教育委員会)

人権教育の推奨プログラムとしての紹介(伊那市、須坂市等社協)



#### ・児童・生徒の感想記入シート導入

→体験の意識づけの強化

県オリジナルプログラム

「車いすボールチャレンジ」等のR4実績

のべ **46**校 **95**クラス(回) **2,351**人  
(R3実績) のべ22校 72クラス 1,536人

#### ・紹介動画の制作

→教師への訴求力向上

<https://parawave.nagano.jp/paragaku/>



#### 来年度の方針

- ・(継続) 市町村単位の教育委員会や社会福祉協議会との連携強化  
→学校への周知機会の増加

- ・「視覚障がい」について学ぶ新プログラム開発  
→ブラインドフットボールの体験を軸に検討中  
県ブラインドサッカー協会と調整中



## 2 パラウェーブ広場の開催

### パラウェーブ広場とは

人が多く集まる場所で一般の方向けに、パラスポーツ体験や競技用具の展示を行い、パラスポーツについて知ってもらうための体験型普及啓発

#### ①イオンモール松本

##### 概要

- 【開催日】 2022年7月3日（日）10時～16時
- 【場所】 晴庭「きらめきホール」  
※イオンリテール株式会社のご厚意により無償提供
- 【実施内容】 「ボッチャ」と「ビームライフル」体験、テナント連動企画
- 【体験者数】 約500人

##### ビームライフル(初実施)

日本障害者スポーツ射撃連盟及び長野県ライフル射撃協会にご協力いただき実施  
【ゲスト講師】 田口 亜希さん（パラ3大会出場）



##### テナント連動企画

昨年度に引き続きテナントショップに協力を募り、「障がい」や「ユニバーサルデザイン」に関連したPOPを実施

11店舗が参加



#### ②24 時間テレビ広場

##### 概要

- 【開催日】 2022年8月27日（土）、28日（日）
- 【場所】 長野市若里公園特設会場  
※日本テレビ系「24時間テレビ」連動のテレビ信州主催企画
- 【実施内容】 「ボッチャ」体験  
共生社会づくり条例紹介コーナー
- 【体験者数】 約500人

##### 効果等

- テレビ信州の番組で紹介があり、広告効果もあり
- 体験ブースをメインとした会場構成となっており、来場者の参加意欲が高い
- 番組の趣旨から福祉に関心の高い来場者が多く、共生社会づくり条例に関する説明への反応も高い

##### R4実績

全2回で約1,000人が参加



##### 来年度の方針

- ・過去に開催実績のない地域での開催検討  
→特に東信や南信地域
- ・ボッチャ以外の競技の採用  
→県内競技団体やチームと連携



### 3 ボッチャ競技大会「パラウェイブ NAGANO カップ 2022」の開催



#### 概要

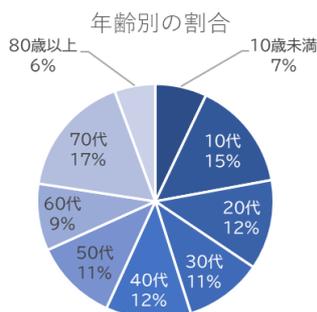
- ・障がいや年齢、性別を問わず、小学生以上であれば誰もが出場可能なボッチャの大会
- ・県内4カ所で地区大会を実施したのち、上位チームによる県大会を実施

#### 開催概要

地区	日時	場所	チーム数	参加者数
北信	11月19日（土）	須坂市市民体育館	12	62
中信	11月23日（祝）	松本市総合体育館	23	99
南信	12月10日（土）	茅野市運動公園総合体育館	16	73
東信	12月17日（土）	軽井沢町風越公園総合体育館	40	178
県	1月28日（土）	県立武道館（佐久市）	27	115

※辞退 11 チーム（全チームコロナウイルス感染症の影響）

※地区大会は予選リーグのみ実施（半日開催）



#### R4 実績

91 チーム    412 人    内障がい者 102 人

#### 来年度の方針

- ・継続的な開催による競技人口の拡大  
→審判員等「ささえる」側も増やしていく  
  パラスポーツ入り口的存在へ
- ・市町村大会開催拡大に向けた取組  
→地域でボッチャをする機会の増加  
  将来的に本大会は県大会のみへ
- ・県ボッチャ協会との連携強化  
→競技運営を始めに将来的に運営主体を移管



# その他広報、資料等

## 広報

### PARAWAVE TIMES

- ・事業のPRとして、関係者や市町村、名刺交換をした方に、パラウェイNAGANOの事業トピックごとにPARAWAVE TIMESを送付

### PARAWAVE NAGANO 公式HP

- ・事業の効果的な発信のため、R3に公式HPを開設
- ・URL  
<https://parawave.nagano.jp/>
- ・HP開設に係る費用は、当実行委員会事業とは別事業のため、参考掲載





# PARAWAVE TIMES

パラスポーツの新しい波を起こそう！  
パラウェーブNAGANO プロジェクト推進中

## Vol.14

### 昨年に続き「パラウェーブ広場inイオンモール松本」を開催！ 「ボッチャ」と「ビームライフル」を約500人が体験しました。

“7月3日にイオンモール松本様の多大なるご協力の下、イベントスペースにて、「ボッチャ」と「ビームライフル」の体験会を実施しました。家族連れを中心に開始から参加者が絶えず大盛況となりました。”

#### ボッチャ体験

「ボッチャ」は昨年に続いての実施でしたが、体験経験者が多く、競技の人気の高さがうかがえました。講師は長野県が誇るパラリンピアン、加藤正さん(伊那市出身)と馬島誠さん(辰野町出身)に務めていただき、ゲームを大いに盛り上げていただきました。



親子で対戦！



加藤正さん



馬島誠さん

#### ビームライフル体験

今回は初めて「ビームライフル」を実施しました。ビームライフルは実弾の代わりに光線を利用した射撃種目で気軽に体験できるのが特徴です。体験した子どもたちが真剣な表情で的を狙っているのが印象的でした。日本障害者スポーツ射撃連盟から機材を貸していただき、長野県ライフル射撃協会に技術指導でご協力いただきました。また、パラリンピアンの田口亜希さんにも講師としてご参加いただきました。



表情は真剣そのもの



10m先の直径5cm弱の的を狙います

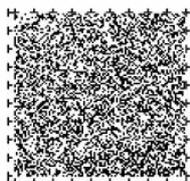


田口亜希さん(写真左)

#### テナント連動企画

前回に続き、共生社会づくりに向けた意識を持ってもらおうとテナント連動企画も実施しました。11店舗にご協力いただき、車いすに乗ったマネキンやPOP展示を行いました。

音声コードはこちら



イオンモール松本様はじめ、ご協力いただいた店舗・企業の皆様、誠にありがとうございました。

発行者：長野県健康福祉部障がい者支援課 障がい者スポーツ支援係  
〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2  
電話：026-235-7108 FAX：026-234-2369 担当 笠原祥多

令和4年度 障がい者スポーツに関するアンケート調査【総合型地域スポーツクラブ】

回答数

57 クラブ／69クラブ

回答率： 82.6%

**Q1 貴クラブの活動(教室やイベント等)に、障がいのある方は参加していますか。**

参加している	22
参加していない	31
わからない(把握していない)	4

「参加している」場合、参加している方の障がい

視覚障がい	2
聴覚障がい	3
車いす使用	4
肢体不自由	5
内部障がい	1
知的障がい	9
精神障がい	4

**Q2 上記Q1で「参加している」と回答したクラブに伺います。**

(1)障がいのある方が参加している活動はどのような活動ですか。

市町村	クラブ名	活動内容
佐久市	岸野スポーツクラブ	軟式野球(信濃レッドスタズ)
御代田町	あさまハイランドスポーツクラブ	車いすカーリング
御代田町	身体能力活性化倶楽部fun	卓球大会、卓球サークル
上田市	さなだスポーツクラブ	ジョギング教室、バトミントン
上田市	うえだ総合型地域スポーツクラブUSC	ドッジボール
伊那市	伊那市総合型地域スポーツクラブ	運動遊び、バトミントン
飯田市	南信州クラブ	ラクビー
阿智村	チャレンジゆうAchi	トレーニング
喬木村	たかぎスポーツクラブ	STT、サッカー、フットサル、テニス
上松町	木曾ひのきっ子ゆうゆうクラブ	木曾養護学校のプール活動
松本市	松本山雅スポーツクラブ	ブラインドサッカー、ボールゲーム
松本市	skipまつもと	サッカー
松本市	総合体操クラブWing	ダウン症親子体操
筑北村	筑北スポーツクラブ	運動教室(小学生対象)
池田町	大かえで倶楽部	ボッチャ交流会、フットベースボール体験交流会
長野市	長野市北部スポーツクラブ	テニス
千曲市	千曲アプリコットスポーツクラブ	ボッチャ
信濃町	この指とまれ☆しなの	ボッチャ教室、サンスポートながの共同スポーツクラブ
飯綱町	いいづなスポーツクラブ	「健康吹き矢」の活動(交流会・練習)
小川村	小川スポーツふれあいクラブ	ニュースポーツ体験会
中野市	中野スマイルスポーツクラブ	軽運動
栄村	さかえスポーツクラブ	ウォーキングイベント

(2)その活動はどのような形態で行っていますか。

障がいのある方を対象としたプログラム	6
一般のプログラム(特別な配慮をする)で健常者と一緒に実施	10
一般のプログラム(特別な配慮はしない)で健常者と一緒に実施	8
その他(具体的に)	
健常者チームと一緒に練習	個人で利用

<b>(3) その活動はどのくらいの頻度で行っていますか。</b>	
週2回以上	2
週1回程度	5
月2回～3回程度	3
月1回程度	6
2か月に1回程度	0
年2回～5回程度	5
年1回程度	3

<b>Q3 貴クラブの指導者等で、「障がい者スポーツ指導員」の資格を有している方はいますか。</b>	
いる	12
いない	45

<b>Q4 貴クラブの活動に、障がいのある方が安全に参加するためにマニュアルを作成していますか。</b>	
マニュアルがあり、障がい別に考慮した項目がある。	1
マニュアルはない。	56

<b>Q5 障がいのある方の参加を促進する上で、課題は何ですか(複数回答可)</b>	
障がいや障がい者スポーツに関する知識・技術の不足	31
障がい者スポーツに関わる機会の不足	21
指導者の確保	34
参加者の送迎手段の確保	16
施設のバリアフリー化	11
障がい者スポーツ用具の確保	16
障がいのある方へのアプローチ方法	21
市町村の福祉担当課との連携	12
地域での支援ネットワーク(障がい者スポーツ競技団体、特別支援学校等)	15
特になし	1
その他(具体的に)	
受け入れ体制不備	可能な範囲で受け入れたい
障がい者と一緒に活動できる環境でない	障がいのある方の把握困難

<b>Q6 障がいのある方の参加を促進するため、希望する支援は何ですか。(3つ以内)</b>	
クラブ指導者等を対象とした障がい者スポーツに係る研修会	22
障がい者スポーツ指導員の派遣	18
障がい者スポーツ用具の貸出	18
障がいのある方へのアプローチ方法(参加を呼びかけるための広報活動等)	27
地域の支援ネットワーク化(障がい者スポーツ競技団体、特別支援学校等)	19
障がい者アスリートの派遣	5
障がい者スポーツに関する情報提供	19
特になし	6
その他(具体的に)	
行政との連携が必要	障がい者団体との連携強化
障がいに対する知識が不足、ニーズもわからない。	
障がい者と一緒に活動できる環境でない	

2023年3月発行

パラウェーブNAGANO実行委員会

事務局：長野県健康福祉部障がい者支援課

電話:026-235-7108 FAX:026-234-2369

E-mail: [parawave@pref.nagano.lg.jp](mailto:parawave@pref.nagano.lg.jp)